

<その他、取組に特徴のある事例>

○タイトル 水田利用によるマコモの生産販売

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	三重県 ^{なばりしながせ} 名張市長瀬・ ^{かみほね} 上羽根 ^{ながせ} 長瀬			
協定面積 4.3ha	田 (100%)	畑	草地	採草放牧地
	水稲、マコモ等			
交付金額 91万円	個人配分			50%
	共同取組活動 (50%)	水路の補修、農道改良、機械共同利用		31%
		マコモの導入推進		4%
		米作りの共同作業 (防除作業)		5%
その他 (役員手当、等)		10%		
協定参加者	農業者 14人			開始：平成12年度

2. 取組に至る経緯

長瀬地区は、名張市中心部から南方向に比奈知ダムの湖畔を経て津市美杉町へ通じる国道沿いにあり、名張川兩岸の傾斜地に農地と民家が散在する山間集落で、水田作中心の農業は極めて零細な地域である。

中山間地域等直接支払制度がスタートした当時には、高齢化や担い手不足による耕作放棄が危惧される中、国道の拡幅整備等に併せて地域の将来像について話し合う機運が高まっていた。そのような中、勤務先を退職した60才前後の耕作者が結束し、I期対策以降の取り組みが開始された。

その後の共同取組活動においては、水路等の損傷をすぐに補修できたこと、防除機械等を共同購入して作業効率が向上したこと等の成果が認められ、また、獣害対策についても早くから取り組み、平成17年には進入防止策が設置されている。

3. 取組の内容

平成18年には、水田の利用促進と新たな特産品づくりに取り組む一環として、協定農地を利用したマコモの栽培を開始した。地元スーパーなどで試食提供するなど情報発信にも努めながら約30aの水田で毎年生産し、現在では、生産量の半分程度を地元で直売するほか、市内にオープンした産直施設でも販売し、学校給食向けにJAにも出荷している。地元販売の中心は、廃校の一角を利用して週1回開催の産直市で、一定のリピート客が付くなど、活性化に向け徐々に成果が現れている。



【長瀬地区の風景】



【水田を利用したマコモ栽培】

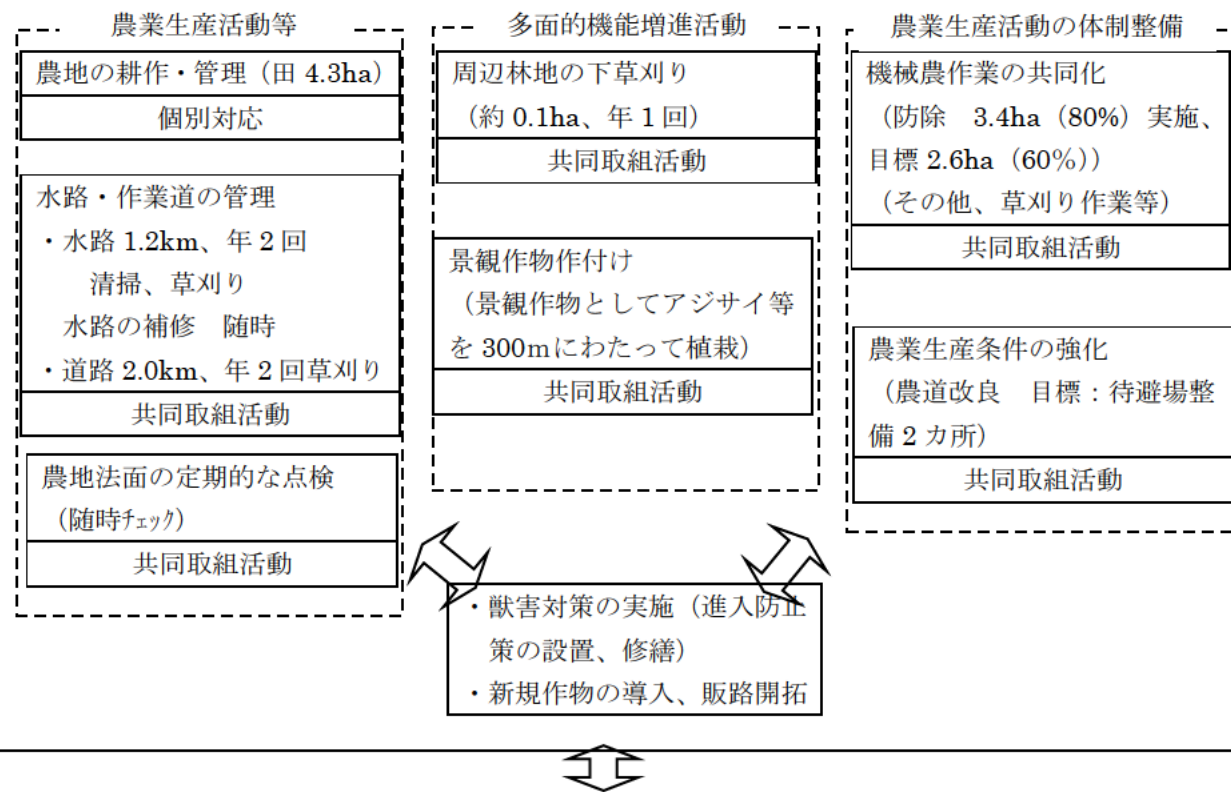
【集落の将来像】

- 地域内の人材だけでは適正な農地利用が困難となりつつある中、持続的な農業生産活動のための体制を構築していく。



【将来像を実現するための活動目標】

- I 期対策以降、取組を主導してきた者がそのまま高齢化しつつあるのが現状であり、次を担う世代を見出していくことが急務となっている。そのため、農業生産活動の効率化を図り、特産品づくり等に努めるとともに、非農業者の参画を得るなど、新たな担い手を見定めていく。



集落外との連携

- 獣害柵の設置等では市内団地住民のボランティア参加を得ており、今後とも団地住民等の参画を検討していく。

4. 今後の課題等

- ・ 高齢化の進行により、農業者によっては日常的な出会い作業にも参加し難い場合が出てきたことから、当面の作業分担や作業内容を見直していく必要がある。
- ・ 近隣集落が獣害対策を進めた結果、早期から進入防止柵を設置した当集落でも再び獣害が増加しており、柵の修繕等の対策が重荷となっている。
- ・ マコモの安定生産と販路開拓にさらに取り組む必要がある。

【第 2 期対策の主な成果】

- 共同利用機械の導入 動力噴霧機、草刈機
- 獣害防止策の設置 延長 2,400m (H17)
- マコモの試験導入 (H18 元気な地域づくり交付金を活用)